



みんなが ぶくしきょういく
みんなで考える福祉教育
ちいさなぶくししんぶん
地域福祉新聞



今年の表紙
(上) 車いすバスケット体験
野木第二中学校
(下) 人権集会
コントロールアタック体験
佐川野小学校

野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生の方と社会福祉協議会、ボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。
ここでは、令和4年度に行われた各校の福祉に関する事業、福祉教育に関わるボランティアの方々の様子などを掲載いたしました。

友沼 小学校

友沼小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしました。外部講師を招いてアイマスク体験や車いす体験、手話、点字、認知症に関するお話など、貴重な体験ができました。そこで、ハンディキャップのある方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めました。人権学習会では、手話サークル「虹の会」の皆さんに手話について講話を頂きました。また、1年生は、野木町更正保護女性会の方とチューリップの球根植えを行いました。

チューリップ球根植え



1ねん はりがや とうま

チューリップのきゅうこんをうえてたのしかったです。大きいたまねぎみたいなかたちをしていました。なにいろがさくのかたのしみです。

1ねん こばやし さくら

ピンクいろのチューリップがさいてほしいです。がんばってそだてていきたいです。

1ねん さいとう しょうた

チューリップのきゅうこんのかたちはさきがとがっていました。大きいきゅうこんでびっくりしました。いろは、きいろがさいてほしいです。

ハンディキャップ体験

(アイマスク体験)



いしい さいが
石井 彩雅

僕はアイマスク体験をして最初は何も見えなくてとても怖かったです。しかし友達の力を借り、白杖を持ってなんとか歩くことができました。僕は、「目が見えない人はこんなに苦労するんだな」と、体験を通して初めて知りました。

これからも、目を大切にしていきたいと思いました。

ことう しゃな
呉藤 紗奈

私は車いす体験をして、足や体が不自由な人はいつも怖い思いをしているのだと思いました。でも、ゆっくり押してくれると少し安心したので、車いすはゆっくり押しあげたいです。

(車椅子体験)



よこた たかし
横田 貴志

耳が聞こえない人は手話を使うけれど、僕はその手話の五十音すら覚えるのがむずかしかったです。目は見えるけど、耳が聞こえないから後ろから急に肩をたたいたらあぶないことが分かりました。これからはやさしくせしていきたいです。

(手話体験)

ふかい まりあ
深井 茉莉愛

私は点字体験をしました。実際に目の不自由な人が来て、不安なことやこわい体験を詳しく話してくれました。点字を打ったり読んだりしているのが大変だと思いました。

目の不自由な人が近くにいたら助けてあげたいと思いました。

はりや ふうた
針谷 颯太

(認知症)

認知症についての話を聞いて、おどろきました。家族の名前を忘れてしまったり、自分のことも分からなくなったりしてしまうからです。そして認知症になった人は、考えることが遅くなったり新しい機能が使えなくなったりしてしまいます。その人は、話を聞いてもすぐ忘れてしまいます。僕はそんな人の役に立ちたいと思いました。

人権学習会



わたなべ まなと
1年 渡邊 真翔

手わがすこしわかりました。ぼくのこえはきこえないけど、みみがきこえない人にあったら、手わやかみでおはなしたいです。

すがや りお
2年 菅谷 莉央

耳がふじゆうな人は、手わだけかと思っていただけ、ほかにもいろいろな話かたがあつてすごいと思いました。学校もわたしたちの学校とちがって、くふうがたくさんしてあることを知りました。

いさわ かいと
3年 岩澤 快斗

「ありがとう」や「家ぞく」「きょうだい」などの手話を教えてもらい、知ることができました。耳の不自由な人がいたら手話で会話をしたいです。

くろさわ ひなた
4年 黒澤 日向

耳の聞こえない人は、かなしいことだけじゃないと思いました。耳の聞こえない人と話す方法は、絵を描いたり、手話を使ったり、紙に文字を書いたり、ゆっくり話したりとたくさんあることを知りました。

あらい たいし
5年 新井 大獅

耳が聞こえない人がかわいそうだと思っていたけれど、動画を見て、手話を使って話せることが分かりました。聞こえない人でも、窓越しに手話をしたり、机の下で手話をしたりして話すことができるのだと思いました。手話を少し覚えたくまりました。

あべ めい
6年 阿部 晏己

みんな普通だと感じていることが、それぞれ違うということが分かった。耳が聞こえて当たり前、聞こえなくてあたりまえな人がいる。それも個性なのでみんな平等に接して、自分にできることを見つけていきたいと思った。

野木 小学校

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に『福祉』について学習しています。ハンディキャップ体験を通して「ひとにやさしい」とはどのようなことなのか、自分にできることはどんなことかなど、考えを深めることができました。

福祉体験

アイマスク体験



階段を降りるときの白杖の使い方がむずかしくて大変でした。

いとう ゆず
伊藤 由珠

補助で歩くときに周りに何があるか教えるのがむずかしかったです。

ただ えいた
高田 瑛太

アイマスクをすると何も見えなくて、まわりが何も分かりませんでした。

くろだ たいが
黒田 大琥

アイマスクをすると何も見えなくてこわいなと思いました。誰かが困っていたら助けたいです。

ほし けんとう
星 健斗

周りが見えなくて、階段を降りる時が怖かったです。

さいとう けいた
齋藤 啓太

白杖を使いながら、階段を昇り降りするのが大変でした。

まつもと りな
松本 莉奈

車いす体験



段差があると予想以上にゆれたのでこわかったです。

うしお くれあ
潮 來愛

車いすの人をサポートするにはいろいろな工夫が必要だと分かりました。

みやかわ せいのみけ
宮川 正乃介

一人でいるときに段差があったらどうしているのだろうと思いました。

しのざき きほね
篠崎 希羽

車いすで生活する人の気持ちを知ることができました。思っていたよりも大変だなと思いました。

やまだ ようせい
山田 陽生

車いすの操作や声のかけ方がむずかしかったです。車いすにはいろいろな種類があることも知ることができました。

ふくしま るい
福島 琉生

車いすに乗っている人がびっくりしないように気を付けて声をかけました。

よしぬま まさき
吉沼 正希

ポッチャ体験



総合的な学習の時間 「ひとにやさしい大作戦」 を通して



ポッチャは、障がいがある人もない人も一緒にできていいなと思いました。

すずき ころ
鈴木 ころ

ぼくも車いすの人や目の不自由な人が困っていたらお手伝いをしたいなと思いました。

あらい やすもと
新井 康元

手話についてインターネットで調べました。手話の歴史や使い方が分かりました。

こくほ ぼたか
小久保 帆高

車いすの人でもできるスポーツがあることを知りました。みんなできていいなと思いました。

にしばやし ゆいと
西林 結心

ぼくは、車いすで生活している人がいたら、おしてあげたいなと思いました。

かやはら かつしげ
茅原 克重

耳が聞こえない人と出会ったら、筆談で会話をしてみたいです。

たかはし なつき
高橋 夏輝

工夫をすれば障がいのある人も一緒に遊べるのが分かりました。やってみたら楽しかったです。

よしまず ちはな
吉増 千花

盲導犬がいることで、目が見えない人も自分たちと変わらない生活ができるということが分かりました。

くどう みづき
工藤 美月

盲導犬について調べ、たくさんの人の支えになっていることが分かりました。

えはら りお
江原 梨桜

佐川野 小学校

佐川野小学校では、今年度人権週間に社会福祉協議会の方々にご協力いただき、障がい者スポーツ体験をしました。体験を通して、障がいのある人や高齢者など、老若男女問わず誰でも楽しめる競技の魅力に触れることができました。

また、2年生の町たんけんでは、「特定非営利活動法人縁人」さんを訪問させていただき、障がいのある方が実際に働いている様子を見せていただいたり、一緒に作業させていただいたりしました。

町たんけん：「特定非営利活動法人 縁人」さん訪問

2年 ^{たての} 館野 ^{ゆり} 友里

町たんけんでは、「だいいちエンジン」に行きました。足がふじゆうな人や気もちをつたえるのががてな人がはたらいています。たいけんもさせてもらえて、楽しかったです。



2年 ^{いなば} 稲葉 ^{ゆめ} 優笑

「だいいちエンジン」に行っているいろいろなしつもんをしました。名前は、人と人のごえんを大切にしたいといういみだそうです。大ふくやぎょうざがおいしいと聞いたので食べてみたいです。

人権集会：障がい者スポーツ（コントロールアタック（ポッチャ））体験



1年 ^{みほし} 三橋 ^{ひろと} 宥斗

せかいじゅうのみんなができるとおもいました。たのしかったし、ルールもわかりやすかったです。おしえてくださって、ありがとうございました。

1年 ^{おぼら} 小原 ^{なごみ} 和

こんなたいけんははじめてで、すごくおもしろかったです。大すきになりました。たいけんさせていただいて、ほんとうにありがとうございました。

2年 ^{すずき} 鈴木 ^{かずと} 和翔

体の不自由な人でもできることがわかりました。思っていたよりも楽しくて、もう1回やりたいです。スタッフの方々、ありがとうございました。

2年 ^{おひな} 老沼 ^{ゆうと} 祐人

コントロールアタックをやって、楽しくてうれしかったです。お年よりやしょうがいがある人も楽しめそうです。またやりたいと思いました。

3年 ^{たての} 館野 ^{ひな} 陽菜

さいしょはボールが思い通りに投げられなかったけれど、練習したら自分の思っている場所に投げることができました。しょうがいがある人もできるようになっていてすごいと思いました。

3年 ^{こいずみ} 小泉 ^{かいと} 快斗

1回目はあまりうまくできなかったけれど、なれてくるとだんだんできるようになりました。ビデオを見て、ポッチャの選手はすごいなと思いました。

4年 ^{かわなべ} 河鍋 ^{ありま} 有馬

今までは車いすに乗っている人はスポーツができないと思っていたけれど、体が不自由でも不自由でなくてもスポーツができることを教えてください、ありがとうございました。

4年 ^{すぎやま} 杉山 ^{あおい} 碧唯

ポッチャは、みんなが平等にできるようにする工夫があり、驚きました。このスポーツをやってみて、ぼくたちでもこういうスポーツを作れそうだと思います。



5年 ^{かきぬま} 柿沼 ^{りんか} 凜香

私は前に同じようなことをやったことがありましたが、ボールを投げること、点を競うことがとても楽しかったです。たくさんのしょうがいのある方にコントロールアタックを知ってもらいたいです。

5年 ^{かじやま} 梶山 ^{あんじゅ} 杏樹

音や声が聞こえない人にも、ラケットの色などで分かるようにしてすごいと思いました。体験したことを高れい者の方と実際にやってみたいです。

6年 ^{いなば} 稲葉 ^{みゆ} 心優

ポッチャを教えてください、ありがとうございました。障がいがある人でもみんな同じで、ルールを工夫すればみんなが楽しめるスポーツになることがわかりました。

6年 ^{かげやま} 蔭山 ^{めい} 芽依

ポッチャは、みんなで楽しく体験できるものだと思えて感じました。スタッフのみなさんが優しくルール説明してくださり、うれしかったです。今度は、実際に障がいのある人と対戦してみたいです。



南赤塚 小学校

南赤塚小では、4年生の総合的な学習の時間「みんなに優しい街づくり」の学習で、本やパソコン、インタビューなどで、福祉に関する調べ学習をしたり、車いす、アイマスク体験に取り組んだりしています。他にも、人権週間を中心に、全学年で福祉・人権に関する学習に取り組んでいます。

人権週間



今年度は、人権集会で「みつけた!」のビデオを視聴した学習を行い、自分のよさや友達のよさについて考えました。また、インターネットと人権の関係についての放送を聞いて、ネットの世界でもみんなが気持ちよく利用できるようにマナーを守ることが大切だと学びました。

インターネットと人権

「ネット」というものは良い情報だけではなく、いじめやアンチコメントがあるのだということを改めて学びました。ネットを通して誰も分からないだろうと他人へのコメントをして、相手が傷つくことを知らない人の中にはいるのだと思いました。いい情報を流すのだということを頭に入れた上でインターネットを使用したいです。

6年 田村 健悟



人権集会

ともだちのよさを見つけたら、ともだちに知らせ、よるこんでもらいたいです。ともだちのいいところを見つけていきたいです。1年 齋藤 ちひろ

じぶんのよさを見つけていくために友だちのキラキラポイントをまねしてあげれば、わたしもじぶんのよさを見つけれられるのかなと思いました。

2年 小林 寛奈

自分のよさは、運動がとくいなところ。友だちのよさを見つけていくために、友だちのいいところがあればすぐに言ってあげたいです。

3年 館野 凌典

最初は、主人公の坂本さんがうさぎの世話をとおしつけられているように見えたけど、うさぎの世話をしていたからこそ、うさぎのことにくわしくなりました。最後にはみんなと仲良くしている様子が見られ、「いいな。」と思いました。やっぱり勇気を出してみんなに伝えたり本当のことを言うなどしたりすると、仲が深まることを学びました。人の気持ちを考えることが大切だと思います。

4年 山根 夢乃

よさは、人それぞれちがうし自分で見つけられるよさもあるけど、自分では見つけられないよさもあることが分かった。勇気を出すことで友達の関係がよくなることも分かった。

5年 加藤 大翔

今回見たDVDの坂本さんのように、自分の新たな一面を見つけるために、自分から進んでいろいろなことに挑戦していきたいと思いました。また、友達のよいところを見つけたら、できれば直接、無理であれば手紙で伝えるなど工夫をして、みんなによいところを伝えたいと思いました。

6年 木村 香乃

総合的な学習の時間

認知症サポーター養成講座



私は認知症を知る前に、認知症らしき人を見かけましたが、勇気がなく、助けることができませんでした。しかし、認知症のことを知ったことで、考えや気持ちが変わり、お手伝いをしたくなりました。認知症サポーターカードも持っているのも、もしも困っていた時は、助けたいと思います。

4年 柿沼 優花

認知症のことを、認知症サポーター養成講座で学び、サポーターカードをもらいました。認知症の多くの方は、脳の機能が衰え、動きが悪くなったりすることも分かりました。街で認知症の人に会ったら、注意するのではなく、やさしく接したいです。

4年 高橋 秀太

車いす体験をする前は、楽しそうな乗り物だと思っていました。でも、実際に体験してみると、とても怖くて、その大変さを実感することができました。これからは、困っている人を見かけたら、声をかけて助けるやさしい行動をしたいです。

4年 河又 祥大

わたしは、最初は車いす体験を楽しみにしていました。でも、実際に乗ってみると、少しの段差でもこわかったです。車いすに乗っている人は、いろいろと大変な思いをしているとわかりました。車いすの人達ががんばっているの、わたしもがんばろうと思いました。

4年 堀越 琴



車いす体験



アイマスク体験

わたしは、アイマスク体験をして、周りの物の位置がよく分からなくて、すごく不安になりました。だから、目の不自由な人はきっと不安なんだろうなと思いました。目の不自由な人がいたら、おどろかせないように、そっと声をかけたいです。

4年 青木 慈雨

ぼくは、学校でアイマスク体験をしました。アイマスクをつけると何も見えなくて、白杖を使って、段差やかべがないか確かめながら歩きました。どこに何があるかが分からなくて、いつつまづくか、とても怖かったです。人が困ることが分かったので、手助けしたいです。

4年 熊谷 樹

新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々に協力を得て、体験学習を充実させています。4年生の総合的な学習の時間で、福祉について学習し、「心のバリアフリー」について考えています。ハンディキャップ体験では、野木町社会福祉協議会、手話サークル「虹の会」、点友会「のぎ」の皆さんやボランティアの方に来校していただき、お話を聞いたり、ふれ合ったり、実際に体験したりしながら、たくさんのことを学ぶことができました。

★総合『心のバリアフリー』★

★車椅子体験★

車いす体験では、段差や坂を車いすで上り下りしたり、自分で操作したりしました。体験から福祉のあり方について考えました。

(児童の感想)

- 車いすに乗ってみて、押されていたときは、人にぶつかりそうでこわかったけれど、押す人がサポートしてくれたおかげで人にぶつからずにすんだ。
- これから車いすを押すときにはよく気をつかいたいと思いました。安心して乗ってほしいです。
- 相手が気をつかってくれると嬉しい気持ちもあるし、楽にもなるのでいいなと思いました。
- 新橋小学校の体育館も、車いすの人が入りやすいようにスロープになっていた。このように、階段など必ず行かなきゃならない所は、スロープになっているといいと思った。



★手話・点字体験★

手話・点字体験では、ボランティアの方から、手話や点字の打ち方などを学びました。



(児童の感想)

- 声に出さなくても手話で話せることが分かりました。
- 目の見えない人は、点字をさわって感じて、注意すべきことや場所が分かります。点字がないとあぶないし、命に関わるので、点字がないところでは教えてあげたいです。
- 手話はかなりむずかしいけど、完ぺきに覚えられれば、いろいろな人とお話できて、「笑顔の輪」が広がるかもしれない。
- 次は実際に使ってみてみたいと思った。

★アイマスク体験★

アイマスクをして廊下を歩き、視覚障がいの体験をしました。

(児童の感想)

- これから障がいをもつ方を見かけたら、優しくサポートし、声掛けをして、みんなが笑顔でくらせるような世界にしたいです。
- どこにでも点字ブロックをおいてあげると分かりやすいと思いました。



野木 中学校

野木中では、福祉委員会を中心に毎月アルミ缶・古紙回収を行っています。今年度も生徒の家庭のみに限定して行いましたが、回収量は昨年度を上回ることができました。収益金で数年前には各教室の電波時計や体育館の冷水機を購入しましたが、今回も学校生活で役に立つものを購入することに使わせていただきます。また、緑の募金の還付金で購入した花の苗は、文芸部の生徒が植え付けを行い、栃木国体に訪れた方々にもきれいな花壇を見ていただきました。今後もいろいろな活動を通して、生徒一人一人の福祉に対する意識を高めていきたいと思ひます。

『募金活動』

たの ゆうた
3年 館野 侑太

野木中学校では、毎年、募金活動を行っており、私たち福祉委員が協力の呼びかけと集計を行っています。今年度は、多くの生徒と先生方のご協力によって、たくさんの募金が集まりました。これらの募金は、発展途上国などにおいて人々に食糧やワクチンを供給したり、緑を増やすなど、生活を快適にするために使われます。そのため、福祉委員は呼びかけを何度も行い、より多くの募金を集めることができるよう努力しました。先日の「緑の募金」の還付金は、文芸部員により植え付けられた花苗購入の資金となり、駐車場の花壇が華やかになりました。「ちりも積もれば山となる」というように、たとえ1円でも、たくさんの善意で人々の心が豊かになります。これからも呼びかけをたくさん行い、よりよい社会になるよう貢献したいです。



『高齢者への手紙』

ほうじと しゆんた
3年 寶示戸 俊太

私たち福祉委員は、高齢者の方々へ手紙を書かせていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年同様地域の方々との交流ができなかった私たちにとって、とても貴重な機会となりました。

この手紙の中には、野木中の普段のようすや高齢者の方々への感謝の思いなどを込めることができました。今年度は、手紙を「虹の舎」に届けることができました。利用している高齢者の方に会うことはできませんでしたが、施設の職員の方々を通して私たちの感謝の気持ちが伝わり、きっと喜んでいただけたと思います。今回は、手紙で感謝の気持ちや野木



中のようすを伝えましたが、学校行事等で高齢者の方々に来校できるようなことを願っています。

『アルミ缶・古紙回収』

えづれ さとし
3年 江連 聡

野木中では、毎月福祉委員会がアルミ缶・古紙回収を実施しています。アルミ缶・古紙回収では、他にもペットボトルキャップやベルマークの回収も行っています。ペットボトルキャップは、発展途上国のワクチン接種などに役立ち、ベルマークは学校生活に必要なものに換えることができます。しかし、今年度はクラスごとの達成率が低く、大きな課題になっていますが、回収量が増えているため、回収により得た金額は前年度を大きく上回っています。

今後、福祉委員会では、クラスの呼びかけを強化して達成率を伸ばすとともに、回収量をさらに増やすことができるよう頑張っていく予定です。



『美化活動を通して』

かじやま かれん
3年 梶山 華蓮

私たち文芸部は、6月に駐車場の花壇にマリーゴールドの苗を植えました。最初は雑草だらけの花壇でしたが、部員全員で雑草を抜き、耕して土作りから始めました。そして、黄色とオレンジ色のマリーゴールドの苗の配置をみんなで話し合っ決めて決まりました。意見が分かれて大変なこともありましたが、一人一人が心を込めて活動することができたと思います。配置決めるとき、バランスがよくなるようにたくさんの意見を出し合い、みんなで協力して植えたことがよい思い出になりました。栃木国体では、たくさんの方々に来校されるので、少しでも華やかに見えるように、分担して水やり等の世話をすることができました。



野木二中では、毎年「ビックアート」を制作・展示しています。今年度は栃木で開催された「とちぎ国体」が題材になりました。また、生徒会で世界情勢を考えて「ウクライナ人道危機救援金」を実施しました。その他に、ボランティア活動も自主的に参加しています。これからも様々な活動を通して、社会福祉について考えていきたいと思ひます。

3年 ^{よもぎた こう} 蓬田 航

ビックアート

野木第二中学校では、毎年アルミ缶を使いビックアートを制作しています。二週間に渡りビックアート係によって制作された作品は輝光祭を彩り、地域の方々からも親しまれています。



今年度は、「いちご一会とちぎ国体」でした。野木町が女子ハンドボール競技の会場になっ

たこともあり、選手の方々を応援したいという気持ちからハンドボール競技を中心としたビックアートになっています。また、輝光祭のテーマである「SDGs」とも関連づけられてもいます。各家庭でアルミ缶を回収したり、昨年度のアルミ缶も利用して、係が協力して制作したビックアートは、輝光祭の象徴となりました。その他に、野木二中では、毎日の学校生活でも、「SDGs」に一生懸命に取り組んでいて、様々な活動が行われています。ビックアートは校舎の壁に毎年吊しているのでもし機会があればご覧下さい。

3年 ^{きさら もね} 木皿 百音

ウクライナ人道危機救援金

野木二中では、SDGsに関する活動に力を入れています。そんな中、日に日に状況が悪化していくウクライナの現状を目の当たりにし、何か自分たちにできることはないだろうか？という生徒会本部からの提案で募金活動をすることに決まりました。

20人以上の有志が集まり、募金箱やポスターを手作りしたり、朝早くからの呼びかけをしたり、学校内からは戦争に苦しむ人々を想い応援する気持ちが伝わる素敵なメッセージが多く寄せられました。熱心な呼びかけで集まった金額は、67,716円でした。



ぜひ人道支援のために使って欲しいと集まったメッセージと共に、社会福祉協議会を通して日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

ウクライナに限らず、世界には何らかの助けが必要な人たちがたくさんいます。そのことを「知る」こと、そして私たちの当たり前前の日常が決して当たり前ではないということに目を向け、感謝をしてこのような活動を次の世代へつなげていきたいと思ひます。

3年 ^{いわもと かずまさ} 岩本 一将

ふくしのつどいのぎ2022ボランティア活動

今年度の野木二中では、世界でも話題となっている「SDGs」を重視した活動を行っています。生徒会を中心に、普段の生活で「SDGs」を意識して行動し、さらに総合の時間では「SDGs」について学び、自分のこととして考えています。

私は、「SDGs」の活動を校内だけでなく、地域の中でも何かやりたいと思ひていました。私は福祉委員長を務め、このボランティアの説明を先生から聞いた時に、友だちと一緒にやろうと考え参加しました。野木二中からは4名参加しました。活動内容は主にフードドライブのお手伝いです。フードドライブとは、各家庭で使われない食料品を預かり、必要とする家庭に配付することです。私たちは預かった食品の賞味期限を確認したり、分けたりしました。このボランティアを通して、地域の方々との交流や多くの経験ができました。この経験をこれからも生かして行きたいと思ひます。



「学校」×「社協」で広がる福祉“共”育

社協では、子ども向けの福祉教育プログラムだけでなく、大人向けのプログラムも計画・提案しています。今年度は南赤塚小学校様の職員研修にて、車いすユーザーの方をお呼びしたプログラムを実施しました。

職員研修「人権教育」レポート

本校では、今年度「地域の人権問題について理解を深め、互いの人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現していこう」というテーマで、障がいがある方や高齢者の方への理解を深め、児童に発信していけるように職員研修を行いました。車椅子で生活をしている方を講師としてお招きし、お話を聞きました。

本校では、怪我のため一時的に松葉杖や車椅子を使って生活している児童は時々いるものの、車椅子利用者については、テレビや町の中で少し見かけるくらいでした。講師の方の実際の体験をもとにしたお話はなかなか聞けないので、とても心に響きました。車椅子生活だから「できない」と考えるのではなく何事にも挑戦することや、できないことでもできるところまで努力して、そのできたことを自信として考えるプラス思考の大切さを学びました。また、家族の助けや友達の援助があったから、頑張ることができたお話を聞いて、問題を一人で抱え込むことなく、人とのつながりを大事にしたいと思いました。今回の研修で我々教員が感じたことをまとめた写真や動画を見せて、子どもたちに伝えましたところ、子どもたちは真剣に話を聞いてくれました。

共生社会の実現のため、子どもたちに指導するだけでなく、我々教員も学び続けることが大切だと改めて感じました。地域の様々な人権問題や福祉問題を正しく認識し、差別のない明るい地域づくりを目指していきたいです。

南赤塚小学校 舘山 文代



地域福祉新聞とは?

野木町社会福祉協議会の「地域福祉新聞」の取り組みは、平成 17 年度に栃木県社会福祉協議会から指定を受け始めた事業をきっかけに始まりました。

当時の協力校は野木中学校区の小中学校 4 校でしたが、平成 20 年度からは町内の小中学校 7 校の協力を得て、地域福祉新聞を発行しています。

地域福祉新聞は、各学校ごとに特色のある地域社会と連携した事業の取り組みや福祉について学んだ内容、児童・生徒さんたちの感想を記事として掲載しています。子どもたちがさまざまな体験とおして得た素直な感想、発見を読んでいただき、今まで福祉にあまり関心がなかった方々にも福祉について考えるきっかけになっていただければと思っています。

『みんなで考える福祉教育』地域福祉新聞』のタイトルにもあるように、新聞を読んで子どもたちの学びを見守りつつ、どうしたら私たちのふだんの暮らしをよくしていくことが出来るかを、身近な人と一緒に考えてみてください。